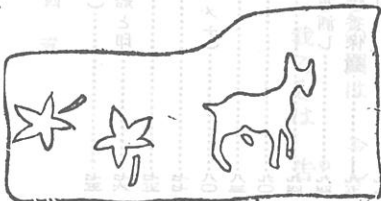




— 目 次 —

はしがき	一	卷第十三	九
卷第一	五	卷第十四	九
卷第二	二五	卷第十五	九
卷第三	二七	卷第十六	一〇
卷第四	四〇	卷第十七	一〇五
卷第五	四七	卷第十八	一〇九
卷第六	五〇	卷第十九	一一〇
卷第七	五八	卷第二十	一一四
卷第八	六三	解 說	一一〇
卷第九	六〇	年 表	一一三
卷第十	六九	地 図	一一五
卷第十一	八四			
卷第十二	八六			



聞

在吉之、里行之鹿齒、春花乃益希見、君相有香

寒過、暖來者、年月者、雖新有人者、舊去

物皆者、新吉唯人者、舊之應宜

懽逢

百磯城之大宮人者、暇有也、梅乎挿頭而、此間

集有

歎舊

モノミヤハ、長クミキヨシク、ヒトハ、フメル、ソロヨロシク、キ

一行と得ん、ミヤノミヤノ、ミヤノ

神代歌、神代歌、神代歌

目次

一、万葉時代に於ける 歴代皇居趾位置……………	六	一、蝦(かばづ)……………	三三
一、大和三山・大和国印……………	九	一、宮滝の象小川……………	三三
一、菖草・紫草……………	一〇	一、聖徳太子御画像……………	三六
一、飛鳥・藤原宮と大和三 山の位置……………	一一	一、山部赤人畫像・真間の 手現名社……………	三九
一、吉野山・宮滝の位置と その景……………	一二	一、浜木綿(はまゆら)……………	四一
一、近江国印……………	一五	一、大宰府印……………	四三
一、人麻呂像……………	一八	一、大宰府趾図……………	四九
一、石見国図・紀伊国印……………	一九	一、巾振山とその位置……………	五三
一、藤白・岩代・湯崎位置図……………	二〇	一、奴延鳥(ぬえ)……………	五三
一、馬酔木……………	二〇	一、和歌の浦と玉津島社……………	五五
一、高麗劍……………	二二	一、久木(ひさき)……………	五五
一、小角の笛……………	二三	一、元興寺印……………	五八
一、狭根葛……………	二四	一、倭琴……………	六〇
一、梓……………	二五	一、呼子鳥……………	六四
一、攝津国印……………	二六	一、卯の花・ほととぎす・橘……………	六四
一、明石海峡附近図……………	二九	一、藤袴・葛・女郎花・など……………	六七
一、千鳥……………	三〇	一、光明皇后御筆蹟……………	六八
一、尾張国印……………	三一	一、蛭(かはころも)……………	七〇
一、田子附近の富士……………	三三	一、浦島絵巻……………	七二
		一、筑波山……………	七五
		一、黄揚(つげ)……………	七五
		一、遣唐揚の船と印……………	七六
		一、鶯……………	七七
		一、上総国印……………	七七
		一、うはぎ(ヨメナ)……………	八〇
		一、白檜……………	八三
		一、山城国印……………	八四
		一、鶏鳥……………	八四
		一、多摩川と布洒し……………	八四
		一、碓氷峠と伊香保嶺……………	八五
		一、遣新羅使印……………	八八
		一、陸奥国印……………	一〇〇
		一、舍人親王画像……………	一〇三
		一、藤原豊成公像……………	一〇五
		一、仏事の勅書……………	一〇六
		一、越中国印・堅香子草……………	一一
		一、石瀬野……………	一一
		一、雲雀……………	二四
		一、玉箒……………	二七
		一、因幡国印・鶯鶯……………	二八
		一、渤海国図・因幡国庁碑……………	二九

○巻第一は長歌一七短歌六七首である。万葉集の三大部類で、雑歌天皇から元明天皇(四七五)の頃までが、歴史的に集められてゐる。(二)奈良県磯城郡朝倉村。初瀬町の西。

(一)雄略天皇。允恭天皇の第五皇子で、在位二十三年(四七九)崩御年六十三。(四)竹や木で作った篋(ハコ)。(五)大和の枕詞。(六)奈良県高市郡高市村字岡。(七)舒明天皇。同天皇の十三年(八四一)十月九日崩。御年四十九。(八)奈良県磯城郡内にある山で畝傍山・耳成山と共に大和三山の

巻第一

雑歌

一 籠もよみ籠持ち 掘串もよみ掘串持ち この岡に 菜摘ま
す兒 家聞かな 名告らさね そらみつ やまとの國は おし
なべて 吾こそ居れ 敷さなべて 吾こそをれ 我こそは 告
らめ 家をも名をも

高市岡本宮御宇天皇代 息長足日廣額天皇

天皇登三香具山望國之時御製歌

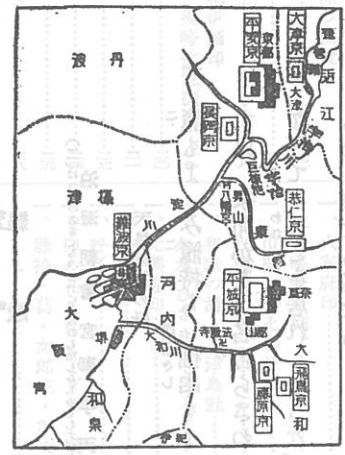
雜歌

(一) 壇安の池。香具山の麓にあつた池。今はない。
(二) 大和にかゝる枕詞であるが、又日本を讃める詞ともなつてい

(三) 奈良県高市郡高市村を流れる飛鳥川の左岸で川原寺の辺。
(四) 皇極天皇。舒明天皇の后。在位(六四二—六六四)重祚(六五二—六八二)天皇の七年七月二十四日崩。御年六十八。
(五) 次頁八の歌社参照。
(六) 京都府宇治郡宇治町。
(七) 大宝元年(七〇一)遺唐少録(慶雲元年(七〇四)歸朝、和銅七年(七二二)正月従五位下)正倉院(七二六)四月伯耆守、養老五年(七二二)東宮侍講、神龜三年(七二六)筑前守

天平五年(七二三)頃七十四歳で卒したといふ。
(二) 滋賀県滋賀郡比良村宮流。
(三) 奈良県吉野郡中莊村宮前。
(四) 高市岡本宮と同じ。
(五) 鏡王の女。大海人皇子(入武天皇)との間に十市皇子を生み、のちに天智天皇に召され、持統天皇の御代まで生存といふ。たゞし、この歌は古註により、領田王の御歌でなく、齊明天皇の御製であることが沢瀉によつて提案された。
(六) 愛媛県道後温泉附近で、今松山市和氣町堀江。(武智雅一氏考)伊豫熱田津石湯行宮。熱田津此云二備積陀豆二(日本書紀齊明紀七年正月)舒明天皇の第一皇子。天智天皇即位前、天智天皇の六年都を近江国大津宮に遷し同六

二 山登庭 村山有等 取與呂布 天乃香具山 騰立ち 國見乎爲者
國原波 煙立龍 海原波 加萬目立多都 恰何國曾 蜻 島
八間跡能國者



(万葉時代に於ける歴代皇居跡位置)

明日香川原宮御宇天皇代
天豐財重日足姫天皇
額田王の歌 未だ詳ならず
秋の野のみ草苅り萱さ宿れり
し兔道の宮處の假廬し思ほゆ
右山上憶良大夫の類聚歌林を檢するに曰く、一書、戊申の年、比良宮に幸し大御歌。但し、紀に曰く五年春正月己卯朔辛巳、天皇紀の温泉に至りたまふ。三月戊寅朔、

天皇吉野宮に幸して肆宴きこしめす。庚辰の日、天皇、近江の平の浦に幸す。

後岡本宮御宇天皇代 天豐財重日足姫天皇位の後、後の岡本宮に即き給ふ
額田王の歌

八 熱田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は榜ぎ出でな

右山上憶良大夫の類聚歌林を檢するに曰く、飛鳥岡本宮御宇天皇元年己丑、九年丁酉十二月己卯壬午、天皇、大后、伊豫の湯の宮に幸す。後岡本宮御宇天皇七年辛酉春正月丁酉朔壬寅、御船西に征き、始めて海路に就く。庚戌御船伊豫の熱田津の石湯の行宮に泊つ。天皇、昔日より猶存れる物を御覽して、當時忽に感愛の情を起したまふ。このゆゑにより歌詠を製して哀傷したまへり。すなはちこの歌は天皇の御製なり。但し額田王の歌は別に四首あり

三 香具山は 畝火を愛しと 耳梨と 相争ひさ 神代より 斯く
かぐやま (七)うねを (八)みみし
中大兄近江宮御 三山の歌一首